

ASEAN グローバルプログラム に参加して

八重嶋 真 由
Mayu YAESHIMA
数理情報学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月7日までの10日間ベトナム・ハノイとシンガポールで ASEAN グローバルプログラムに参加した。8月29日から9月2日まではベトナム、9月3日から9月7日まではシンガポールという日程であった。この研修では、ビジネスパーソンの講演や交流会、PBL 活動、戦争記念博物館や国立博物館等の文化や歴史を学ぶための見学を行った。以下では参加の目的、研修内容、研修で得た事を記す。

2. 参加の目的

参加の目的は以下の3つである。

1つ目は、職業選択のためにビジネスパーソンと交流して多様な考え方を得る事。

2つ目は、初対面の人とグループを組み、初めて行く地で PBL 活動を行う事でプロジェクトの進め方を体感しながら学ぶ事。

3つ目は、国際的な視野を広げる事である。

3. 研修内容

3.1 企業見学

Takagi Vietnam, Rikkei Soft, NTQ の三社を見学させて頂いた。Takagi Vietnam は水処理や金型を作製している企業で海外初拠点としてベトナムを選んだ理由を聞くことで ASEAN 諸国との関わりやこれからの ASEAN 諸国の発展を知る事が出来た。

Rikkei Soft と NTQ はどちらもベトナムの IT 企業であるが日本との取引が一番多いと聞き、なぜ日本が海外企業と取引をするのかを知る事が出来た。

3.2 PBL 活動

今回の PBL 活動では、『ベトナム市場にユニクロを売り込もう』という目標を持ち、ベトナム工業大学の学生と共にアンケート調査を実施した。この PBL 活動は8月31日、9月1日の二日間で実施した。日本人5人のグループにベトナム人学生2人を加えた7人のグループで活動を行った。1日目は、顔合わせ・自己紹介をしてから英語でコミュニケーションをとりながら方向性を確認してアンケートの質問事項を考える事から始めた。その後、アンケート用紙の作成、大学構内とハノイの中心であるホアンキエム湖周辺の2か所でアンケート調査を実施し、ホテルに帰ってから調査結果の集計・分析を行った。先生方から指摘やアドバイスを頂き、それを参考にして仮説を再設定するという流れであった。2日目は、アンケートの集計・分析結果をベトナム人学生と共有し意見交換を行った。そこでもう一度方向性を確認して1日目と同じ流れでアンケート調査を行った。午後はその日の集計、大学とホテルで行うプレゼンテーションのために英語と日本語の2種類の資料を作成した。ホテルのプレゼンテーションではベトナムで働いている日本人の方2人に意見を頂いた。

この PBL 活動を通して2つの力をつける事が出来た。1つ目は、コミュニケーション能力である。ASEAN グローバルプログラムへの参加が決まり、グループのメンバーが決定してから、事前学習として PBL の内容や仮説をグループ内で話し合っていたが、メンバーの予定が合わず、直接会って意見交換が出来たのはこのプログラムの1日目であった。そのため、ほとんど交流のないメンバーと2日間という限られた時間の中で活動したためにコミュニケーション能力を高められたと感じる。2つ目は、自主性である。2日間でアンケートを200枚回収する事を目標にして集計・検討していく事は自ら出来る事を探して動かなければ時間内に終わる内容ではなかった。グループのメンバー全員が自主的に自分のすべき事を見つける事が出来たために2日間まで

とめる事が出来たのだと思う。よって、自主性ととも
に今何をすべきでどの仕事かされていないのかを
客観的に見る力も得る事が出来たと思う。英語での
コミュニケーションは困難であり、その中で PBL
活動を行う事は想像以上に大変ではあったがその状
況で最終のプレゼンテーションが出来た事で自信に
つながった。また、この活動の中で自分の英語スキ
ルや意見交換での積極性の低さ、ビジネスパーソン
から頂いたアドバイスなどで改善すべき点にも気づ
く事が出来たため本当にいい経験になった。

3.3 南洋理工大学キャンパスプログラム

南洋理工大学はシンガポールにある大学で、ロボ
ットの作製や航空管制のシステムに関する研究施設
を見学させて頂いた。とても広いキャンパスで学ぶ
内容的にも高度なものが多いと感じた。就職してか
ら仕事で必要となる技術を身につけようとしている
学生と交流する事で、これから大学で勉学に取り組
むモチベーションを上げる事が出来た。

3.4 ビジネスパーソンとの交流会

シンガポールでは4人の日本人ビジネスパーソン
の方と交流会を行った。海外で働く事になったきっ
かけや学生の頃はどのように過ごしていたのか、海
外と日本の職場の違いや海外で就職するためにはど
のようにすればいいのかなど様々な質問に答えて頂
いた。挑戦してその経験から自分の可能性を広げる事
が出来ると気づく事が出来ました。

3.5 加藤さんの講演

加藤順彦さんは『若者よ、アジアのウミガメとな
れ』の著者である。この本を事前に読み、それに基
づく講演をして頂いた。加藤さんは学生の頃からビ
ジネスを始めて日本で起業していたが時代の流れを
考えシンガポールに拠点を移して仕事をされている

方である。自分の人生からは想像もできないような
熱い生き方をされている方でそのような考え方・生
き方の選択もあるのだと思い、自分の人生は多様で
あり何を選択するかも自由であると深く感じた。

4. 研修を終えて

この研修を通してたくさんの事を学ぶ事が出来、
当初の参加の目的も達成する事が出来た。研修に参
加する前は海外で働くイメージが出来ずに海外に対
して遠いイメージを持っていた。しかし、参加して
海外の文化に触れながら様々な体験をするうちに海
外を身近に感じる事が出来るようになり、グローバ
ル化の背景にあるものにも気づく事が出来た。慣れ
ない環境で、自分で考えて行動し、様々な課題をこ
なしていく中で自分自身のスキルアップやスキルア
ップをするきっかけになる経験になった。10日間
という期間は行く前は長く感じていたが、研修が終
わるとあっという間だったと感じてもっと自分の体
験した事のない経験をしたい、挑戦したいという気
持ちは強くなった。

5. おわりに

この経験は今まで何事においても安心な道だけを
進んできた私にとって自分自身を変えるための良い
機会になった。将来どうしようとする前に何かに
挑戦する事でスキル身につけて選択肢を増やす事が
出来、本当にしたい事を見つける事や視野を広げる
事ができるのではないかと気づく事が出来た。この
研修で、これからの可能性を増やすために英語力を
高める事と挑戦や失敗を乗り越える事で得る事が出
来るスキルや自信を持つ事が私には必要であると分
かった。この事を目標として大学生活を過ごした
い。

この貴重な経験を与えてくださったたくさんの
方々に心より御礼申し上げます。